倉敷芸術科学大学紀要

創刊の辞

加計学園　理事長　　加　計　　勉

本学は誕生して１年目の若い大学です。そこに集う人々は，教職員と学生の違いはありますが，自らの手で自分たちの学園の歴史を作っていこうという若々しい息吹を感じさせてくれます。

本学の位置する倉敷は，江戸時代に幕府の直轄地として発展し，日本有数の美術館である大原美術館を始め，美観地区など豊かな文化・芸術資源を育んでおります。さらに，倉敷南部には水島臨海工業地帯を擁しており，わが国のテクノロジー発展の一翼を担ってきております。このように，歴史のある文化・芸術資源と先端科学技術を有する倉敷という地で，本学の教員・学生ともに，ある者は芸術の分野で“美”と“文化”の新たなる創造に，またある者は科学技術の分野で“テクノロジー”の新たなる開発に向けて歩み出しておりますが，これらは来るべき新世紀を創造するという気概に富んだものであり，その活動に大いに期待したいと思います。

“科学”，“芸術”ともに自らの手で新たなものを“創造”するという点で本質的につながっており，先人の遺産をただ受け継ぐだけでなく，さらにそれを発展させ，あるいは，全く新しい境地を切り開き，その成果を後世に伝えていくことが現代に生きる我々の使命であります。本学の教員となられた方々は，ただ単なる先人の模倣に終わったり，過去の業績にとらわれたりすることなく，自由闊達な発想のもとに自らの研究，後進の指導，学生たちの教育を行っておられることと思いますが，これらのことには，本学が誕生して間もない新しい大学であればこそ，新たな気持ちで取り組むことができるものと思います。

以上のことを踏まえて，今回，新たに「倉敷芸術科学大学紀要」が創刊されることとなりましたことは誠に有意義なことであると思います。この紀要がただ単に各々の研究の足跡を残すためのみに留まらず，同学の士の研究の一助となるなど，真に後世に伝えるべき価値のあるものになるようにと祈念し，創刊の言葉とさせていただきます。

1996年２月１日